大阪・郡家今城遺跡

1 所在地　大阪府高槻市今城町

2 調査期間　一九六九年（昭44）

3 発掘機関　大阪府教育委員会

4 調査担当者　田代克己

5 遺跡の種類　集落跡

6 遺跡の年代　奈良時代～平安時代前期

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

郡家今城遺跡は高槻市のほぼ中央を流れる芥川の西に位置する。この地域は摂津最大の前期古墳群である弁天山古墳群や今城塚古墳、また、芥川廃寺、式内阿久刀神社が存在するなど、古くからの三嶋地方の中心地であり、嶋上郡衙に比定される郡家川西遺跡もこの地に存在する。この遺跡は郡家川西遺跡の西に接するように存在し、存続期間がほぼ同じである点などから、

（京都西南部）

郡衙と密接に関連する遺跡と考えられている。

調査は大阪府立三島高校の建設に伴うもので、敷地内の北東寄りの調査区では多数の掘立柱建物や井戸などが検出された。木簡は調査区の北端に存在する井戸から出土した。井戸は径一・七mの円形の掘形を持ち、底部では曲物桶数個を使用して井戸枠としている。木簡とともに土師器、斎串が出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1)　鳥取部□六人部子□□　(114)×12×3　019

9 関係文献

高槻市史編さん委員会『高槻市史』第六（一九七三年）

（鷲森浩幸）